



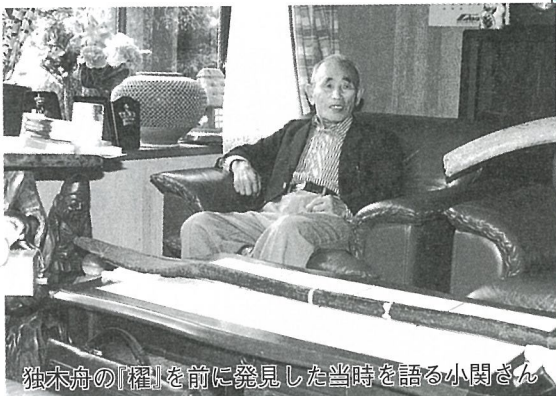
## 縄文時代の

# 貴重な「<sup>かい</sup>権」を寄託

この度、於幾にお住まいの小関喜保さん（85歳）が大変貴重な独木舟の「<sup>かい</sup>権」を房総風土記の丘に寄託しました。

この「<sup>かい</sup>権」は、小関さんがまだ若かった昭和10年の1月、坂田池の掘削工事を手伝っていた時に池の中央から北へ約20メートルの地点で、土中約2メートルの深さから偶然発見したもので、専門家に調べてもらった結果、縄文時代に使われていたと思われる全長1メートル54センチの独木舟の「<sup>かい</sup>権」であることが判明。それ以来、家宝として大切に保管していましたが、高齢となり管理も大変になったことから、町教育委員会に相談したところ、千葉県内の大切な遺産を保管している房総風土記の丘に寄託することになったものです。

小関さんはこのほかにも、横芝町東町から出土した2メートル以上もある骨格標本も寄託し、これについては現在専門家が調査中とのことです。



独木舟の「<sup>かい</sup>権」を前に発見した当時を語る小関さん

## モズ親子の愛情

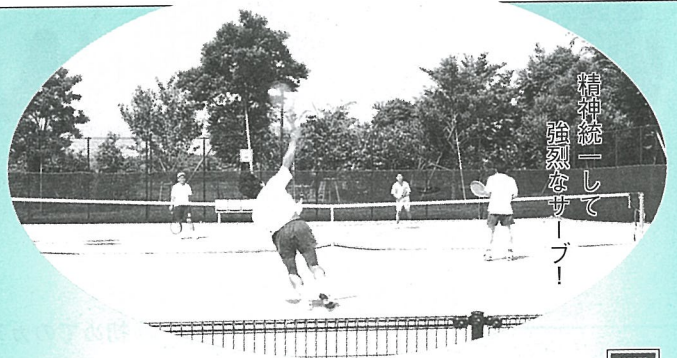
雨のあがった7月のある日、坂田池に通じる小排水路の上を数匹のモズがキイキイとかん高い鳴き声でとび回っていた。あまりの異常な鳴き声にふと排水路を見ると、アオコで汚れた排水路の中に、巣立って間もない幼鳥が全身アオコに染めて弱々しく親鳥の救いを求めています。

さっそく玉アミですくい上げ、アオコを洗い流して芝の上に放してみました。グツタリと横になったまま動こうとしません。親鳥はキイキイと鳴きながら幼鳥にエサを与え、巣立ったばかりの仲間たちもキイキイと飛び交いながら励ましている様子に見えました。そしてしばらくすると幼鳥は元気を取り戻し、親鳥や仲間たちと一緒に木々の中に飛んでいきました。

こんな小鳥でさえも親と子、兄弟の絆はこんなに強いものなのかと感心し、ほのほのとした気持ちになりました。



アオコを洗い流し元気になったモズの幼鳥



精神統一して  
強烈なサーブ！

## 暑さを忘れてプレーに集中

### 町民親睦テニス大会「硬式」

7月5日（日）、ふれあい坂田池公園テニスコートを会場に町民テニス大会「硬式」が開催されました。この大会は、町内の硬式テニス普及と愛好者の親睦を深めることを目的とし、町内在住・勤務の方54名が参加しました。

主な試合結果は、次のとおりです。

男子		女子	
優勝	大村 博三	優勝	守屋とき子
準優勝	熱田 等	準優勝	橋本 美喜
	伊藤 雅宣		井村 利美
	布施 靖		白石 真奈